

## 実践のまとめ（第8学年 社会科）

三条市立大崎学園 教諭 佐藤 一機

### 1 研究テーマ

社会的な見方・考え方を働かせて、問題解決に至る子どもの育成  
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実をとおして～

### 2 研究テーマについて

#### (1) テーマ設定の意図

「学習指導要領社会科解説（平成29年告示）」や「中央教育審議会答申（平成28年）」をふまえると、これからも続く予測困難で変化の激しい「VUCA」時代を生き抜くためには、将来にかけて主体的に学び、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりすることで、問題を解決し、新たな価値を生み出していく力がさらに求められる。そして、その力を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ることが教育現場には求められている。その授業改善の際の留意点の一つに、深い学びの鍵として各教科等の「見方・考え方」を働かせることの重要性になると述べられている。

中学校社会科における「社会的な見方・考え方」とは、「課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の視点や方法である」とされている。これをふまえ、「中学校学習指導要領解説」では、地理的・歴史的・公民的分野の三分野それぞれに応じた視点の例や視点を生かした考察・構想（選択・判断）に向かう「問い」の例が示され、この視点や方法に基づき「問い」を意識することが大切であるといえる。このような背景から、これからの社会科学習に求められることは、「社会的な見方・考え方」を働かせながら、工夫され、連続した「問い」を追求していく問題解決型学習を通して、現在から将来の世の中に参加・参画していこうとする子どもを育てることだと考える。

そうした中で、これまでも授業実践を重ねてきたが、見方・考え方を働かせた問いの工夫、資料や活動形態等の工夫が不十分だったため、子どもが見方・考え方を十分に働かせて問題解決に至る姿が限られていた。そこで、深い学びの実現に欠かせない「個別最適な学び」と「協働的な学び」をICT機器の活用のもとで単元に位置付けながら、見方・考え方を適切に働かせて追求を深めることができる問題解決型学習を設定することで、社会科が目指す資質・能力の育成につなげたいと考え、研究テーマとした。

#### (2) 研究テーマに迫るために

##### ① 「社会的な見方・考え方」が働く問いの工夫

「学習指導要領社会科解説（平成29年告示）」や「中央教育審議会答申（平成28年）」をふまえ、本研究では、『社会的な見方・考え方』が働く問いを「事実に向かう問い」、「概念に向かう問い」、「選択・判断に向かう問い」の3つに設定し、単元の中で問いが連続するように工夫する。

- ・位置や空間的な広がり、時期や推移、政治、法、経済などに関わる多様な視点に着目する際に生まれる問い。【事実に向かう問い】

→例：「位置や分布」：「近畿地方の自然環境は、どのように広がっているのか？」

「場所」：「万博が開かれた大阪は、日本の産業にとってどのような場所だろうか？」

- ・地域の特色や地域相互の関連、時代の転換の様子や各時代の特色など、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考える際に生まれる問い。【概念に向かう問い】

→例：「人間と自然の関わり」：「琵琶湖と人々の生活はどのように関わり合っているのか？」

「他地域との結びつき」：「なぜ、京都市には他地域から多くの人々が集まるのか？」

「地域」：「どのようにして、近畿地方は観光がさかんな地域となってきたのか？」

- ・世の中における現在進行形の問題に対して自分事として捉え、世の中との関わり方をふまえて自分の考えを選択・判断する際に生まれる問い。【選択・判断に向かう問い】

→例：「どのようにして『観光公害（オーバーツーリズム）』という問題を解決し、『持続可能な観光』を目指していくべきか？」

② ICT機器を活用した「指導の個別化」と「学習の個性化」の設定

「指導の個別化」では、子ども一人一人の特性などに応じて、学習方法や活用資料などを柔軟に設定する。「学習の個性化」では、子どもの興味・関心に応じて、選択肢から目標や学習対象を選んで追求を深めたり、【選択・判断に関する問い】に対して考察したりする場面を設定する。それぞれICT機器の活用によって、協働的な学びとの一体化を図る。

③ 「知識構成型ジグソー法」による協働的な学びの工夫

思考ツールとICT機器を活用した「知識構成型ジグソー法（図1）」を適宜実施することで、協働的な学びを促す。互いの見方・考え方を取り入れていく過程で、事実に知識・概念的知識を獲得し、「選択・判断」に向かう問いに対しても個人やグループでの納得解・最適解に至ることができるように工夫する。

④ ICT機器を活用した振り返りの工夫

ICT機器（オクリンクプラス）を活用し、毎時間の学びを自覚させることで、社会的な見方・考え方をふまえた単元のまとめ（問題解決）の表現につながるようにする。

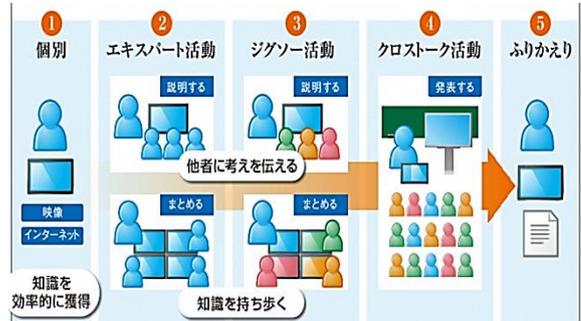


図1: 「知識構成型ジグソー法」のイメージ\*

(3) **研究テーマに関わる評価**

- ① 各授業の学習問題（◎）に対する考えや単元のまとめの記述に、各分野の「社会的な見方・考え方」を働かせた記述が表現されている。
- ② 事後アンケート項目「ICT機器の活用」「個別最適な学び」「知識構成型ジグソー法による協働的な学び」「単元の振り返りシート」に対する肯定的評価が80%以上ある。

3 **単元と指導計画**

(1) **単元名** 「近畿地方～歴史的背景をもつ地方的特殊性と観光～」(地理的分野／教育出版)

(2) **単元（題材）の目標**

近畿地方が観光のさかんな地域となっている理由について、①歴史的背景をもつ観光資源が多いこと、②京阪神大都市圏を拡大した交通網の整備が進んだこと、③観光資源に対する企業・自治体の取組と住民の思い・協力があることなどの複数の視点・立場から理解を深める。また、京都市が抱える「観光公害：オーバーツーリズム」の問題を通して、「持続可能な観光のあり方」について主体的に追求し、根拠をもって自分の考えを表現することができる。

- ① 各種データから情報を適切に選択して読み取り、近畿地方の地方的特殊性につながる歴史的背景や観光の実態、その他の地域的特色について理解している。【知識・技能】
- ② 近畿地方が観光のさかんな地域である理由と「持続可能な観光」のあり方について、歴史的背景をもつ観光資源や産業の特色、交通、住民の関わり、他地域の動向などから多面的・多角的に考察し、表現している。【思考力・判断力・表現力等】
- ③ 歴史的背景をもつ近畿地方の地方的特殊性と観光のあり方について、よりよい地域社会の実現を視野に、その特色と問題の解決策を主体的に追求しようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

(3) **単元の評価規準 ※CはBに満たない**

	達成した子どもの姿 (B)	達成した子どもの姿 (A)
知識技能	歴史的背景や観光の実態、その他の地域的特色について、諸資料から概要を把握し、観光がさかんな理由や「観光公害」の解決策へ反映している。	歴史的背景や観光の実態、その他の地域的特色について、諸資料から情報を適切に把握し、観光がさかんな理由や「観光公害」の解決策へ十分反映している。
思考判断表現	「知識構成型ジグソー法」による多面的・多角的な考察を通して、観光がさかんな理由や「観光公害」の解決策、「持続可能な観光」に対する自分の最終的な考えを表現している。	「知識構成型ジグソー法」による多面的・多角的な考察を通して、観光がさかんな理由や「観光公害」の解決策、「持続可能な観光」に対する自分の考えをくり返し見直し、最終的な考えを複数の根拠から具体的に表現している。
主体的	歴史的背景をもつ近畿地方の地方的特殊性と観光のあり方について、よりよい地域社会の実現を視野に、その特色と問題の解決策を主体的に追求している。	歴史的背景をもつ近畿地方の地方的特殊性と観光のあり方について、よりよい地域社会の実現を視野に、その特色と問題の解決策、「持続可能な観光」を粘り強く追求している。

(4) 単元の指導計画と評価計画 (全7時間 本時7/7)

単元で目指す深い学びの姿

近畿地方が観光のさかんな地域となってきた理由について、①歴史的背景をもつ観光資源が多いこと、②京阪神大都市圏を拡大した交通網の整備が進んだこと、③観光資源に対する企業・自治体の取組と住民の思い・協力があることなどの複数の視点・立場から理解を深める。また、京都市が抱える「観光公害：オーバーツーリズム」の問題を例にして、「持続可能な観光のあり方」について主体的に追求し、根拠をもって自分の考えを表現することができる。

時数	○学習内容・活動・予想される反応	●授業者の工夫・働きかけ	◆評価基準・評価方法
1次 (1)	<p>◎近畿地方の「観光」に関するデータから、どのような特色がわかるか？ 【事実に向かう問い／見方・考え方：位置や分布、場所、地域】</p> <p>◆「観光立国」の日本において、近畿地方が存在感を示している現状について、複数のデータから適切に読み取り、理解している。【知・技】</p> <p>①近畿地方に関するレディネス調査から、近畿地方に対する一人一人のイメージを共有する。 「私たちがのように、旅行で訪れる場所が多いイメージ。」 「歴史の授業で多く登場してきた場所が多いイメージ。」</p> <p>②資料A～Cから、「観光立国」日本において、首都機能のある関東地方に次ぎ近畿地方が存在感を示している事実を読み取り、単元を貫く学習問題を設定する。 資料A：半数近くの中学校が、修学旅行先として近畿地方へ訪れている。(感染状況下と比較しても微増) 資料B：都道府県別訪問率ランキングの上位に、大阪府、京都府、奈良県、兵庫県が入っている。 資料C：外国人向けの旅行案内書「ミシュランガイド」によると、☆1～3の合計ランキングで、1位が東京(200)、3位が京都(97)、4位が大阪(93)となっている。</p>	<p>①オクリンクプラスのキーワード集計をイメージマップとして活用する。 様々なイメージの中から、単元で扱う内容に関連している学園生に聞く。</p> <p>②次の資料A～Cをタブレット上で閲覧できるようにして、個人やグループで読み取った結果をワークシートに表現できるようにする。 資料A：「R5 修学旅行訪問別実施状況(公私立中学校)」(全国修学旅行研究協会HPより) 資料B：「R6 日本各地への訪問の実態」(日本政府観光局HPより) 資料C：「R5 都市別☆ランキング」(ミシュランジャパンHPより)</p>	<p>・オクリンクプラス上での表現</p> <p>・ワークシート</p> <p>・追求活動の様子</p>
<p><b>単元を貫く学習問題：「どのようにして、近畿地方は観光がさかんな地域となってきたのか？なっていくべきか？」</b></p>			
1次 (1)	<p>③予想(観光資源の候補)を立てる。 「日本を代表する京都や大阪が発展しているから。」 「人が集まりやすい条件が整っているから。」</p>	<p>④予想を共有し、単元の見通しを確認する。</p>	<p>・振り返りカードの記述</p>
2次 (1)	<p>◎琵琶湖と人々の生活は、どのように関わっているのか？ 【概念に向かう問い／見方・考え方：人間と自然の関わり】</p> <p>◆観光資源の1つである「琵琶湖」が、「近畿の水がめ」として昔から現在にかけて近畿地方の産業や人々の生活を支えてきたことについて、複数のデータから適切に読み取り、理解している。【知・技】</p> <p>◆「知識構成型ジグソー法」を通して、琵琶湖が近畿地方に与える影響力と官民協働の環境保全の取組について、多面的(「環境」「産業」「生活」)・多角的(「住民」「企業・自治体」「旅行者」)に考察し、関連性を表現することができる。【思・判・表】</p>		
3次 (2) フレ	<p>◎なぜ、京都市には他地域から多くの人々が集まるのか？ 【概念に向かう問い／見方・考え方：他地域との結びつき】</p> <p>◆「知識構成型ジグソー法」を通して、近畿地方の観光の中心地として他地域から多くの人々が集まっている京都市のまちづくり(伝統的な景観保全)の工夫について、多面的(「歴史・文化」「経済」「交通」「ルール」)・多角的(「旅行者」「企業・自治体」「住民」)に考察し、考えを表現することができる。【思・判・表】</p>		
4次 (1)	<p>◎万博が開かれた大阪は、日本の産業にとってどのような場所だろうか？ 【事実に向かう問い／見方・考え方：場所】</p> <p>◆観光資源の1つである大阪が、「天下の台所」と称された商業中心の時代から「阪神工業地帯」で栄えた工業中心の時代を通じて日本の産業を支えてきたことについて、複数のデータから適切に読み取り、理解している。また、高い技術を誇る中小企業の存在や臨海部の発展が新たなまちづくりにつながっている現状を理解している。【知・技】</p>		
5次 (2) 本時	<p>◎どのようにして「観光公害(オーバーツーリズム)」という問題を解決し、「持続可能な観光」を目指していくべきか？ 【選択・判断に向かう問い／見方・考え方：地域】</p> <p>◆京都市で起こっている「観光公害：オーバーツーリズム」の現状について、複数のデータから適切に読み取り、理解している。【知・技】</p> <p>◆「知識構成型ジグソー法」を通して、京都市や国内外の事例を基に「観光公害：オーバーツーリズム」の解決策を多面的(「時間的・空間的分散」「マナー・ルールの浸透・強化」「課税・徴収」)・多角的(「旅行者」「企業・自治体」「住民」)に考察するとともに、「観光立国」日本全体につながる「持続可能な観光のあり方」に対する考えを、根拠をもって表現することができる。【思・判・表】</p> <p>◆「観光公害：オーバーツーリズム」の解決策の考察を通して、「持続可能な観光のあり方」について、主体的に追求している。【主体的に学習に取り組む態度】</p>		



1学期に実施した「資源・エネルギー」に関する実践では、上述した2(2)①～④の手立てを通じて、様々な資料をもとに、資源の分布・消費・自給状況、発電方法のメリット・デメリット等について、想定以上に主体的・対話的に追求を深める姿が見られた。そして、資源エネルギーが世の中や日常生活を支えていることを自分事として捉え、電力の確保に向けた日本のあり方に加えて自分自身の向き合い方を見直し、SDGsの目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」に対する意識を高める姿や具体的な行動に言及する姿が見られた。

本実践においても、上述した2(2)①～④に「知識構成型ジグソー法」を加えた手立てを通して、学園生が今年度の3月に修学旅行で訪れる近畿地方の地方的特殊性について、社会的な見方・考え方を働かせながら、歴史的背景と観光のあり方を関連させて、主体的・対話的に追求する姿を期待したい。

## 5 本時の展開 (令和7年10月15日実施)【全7時間 本時7/7】

- (1) ねらい
- ①「知識構成型ジグソー法」を通して、京都市が抱える「観光公害：オーバーツーリズム」の対策を、多面的（「時間的・空間的分散」「マナー・ルールの浸透・強化」「課税・徴収」）・多角的（「旅行者」「企業・自治体」「住民」）に考察することにより、「持続可能な観光のあり方」に対する考えを根拠から表現することができる。
  - ②「観光公害：オーバーツーリズム」の解決策の考察を通して、「持続可能な観光のあり方」について、主体的に追求している。

### (2) 展開の構想

- ①前時に「知識構成型ジグソー法」の「エキスパート活動」と「ジグソー活動」で把握した「観光公害：オーバーツーリズム」の対策に関して、内容を「クロストーク」で共有する。
- ②「クロストーク」で共有した中から、「持続可能な観光」に有効だと考える対策を個人で選択・判断し、根拠をもった納得解をGoogleスプレッドシート上に表現する。
- ③近畿地方を中心に単元を通して考えた「持続可能な観光」に対する考えをGoogleスプレッドシート上に表現する。(本時の展開によって次時に回す)

### (3) 展開

#### ①前時(参考)※45分授業

時間	学習活動・内容・予想される反応(S)	授業者の工夫・働きかけ(T)	留意点
導入 3分	①単元を貫く学習問題と、追求の中で生じた発展的な学習問題について確認する。	①スライドを提示し、問いかけて反応を確認しながら進める。	
	<b>単元を貫く学習問題：「どのようにして、近畿地方は観光がさかんな地域となってきたのか?なっていくべきか?」</b>		
	S1「観光公害(オーバーツーリズム)。」 S2「混雑」「マナー・ルール違反」「観光資源へのダメージ」 S3「できない。旅行者・住民ともに観光に対してネガティブになってしまう…」	T1:「観光がさかんである中で、京都市を例に発生している問題を何と言いましたか?」 T2:「具体的な問題には何がありますか?」 前時に示した各資料を再提示 T3:「このような問題が続いていくと、日本の観光を持続していくことができますか?」 T4:資料「これからの京都観光が目指す姿」を提示して学習問題②を設定する。	①～④ ・ICT活用 ・子どもの反応が返るよう問いかける。
<b>前時～本時の学習問題 「どのようにして『観光公害(オーバーツーリズム)』という問題を解決し、『持続可能な観光』を目指していくべきか?」</b>			
展開 40分	②今日の流れをスライドで確認する。	②今日の流れをスライドで提示する。	
	③班で資料A～Cを分担し、具体的な対策内容を追求して、 <u>オクリンプラスの「マイボード」にカード化する。</u> 【エキスパート活動(個人) / 10分】  資料A:「時間的・空間的分散」について …時間・時期・場所の分散化、「見える化」など 資料B:「マナー・ルールの浸透・強化」について …外国人マナー認知度、「京都まちけつ」など 資料C:「課税・徴収」について …観光に関する各国の〇〇税など	③各資料から分かる・考えられる具体的な対策の内容が、「誰に・何にとって(=多角的)、 <u>どのような効果をもたらすのか?</u> 」について考え、表現することを求める。 例A:旅行者・住民の「利便性」が増す。企業の利益・雇用が安定する。 例B:旅行者・従事者・住民の「困り感」が減る。景観や観光資源が守られる。 例C:自治体が観光資源の維持・発展の財源にできる。	③～⑤ ・ICT活用 ※画面を資料とオクリンプラスの半々にする

展開 40分	④同じ資料を担当した人を確認し、情報共有をする。 【エキスパート活動（同じ資料のメンバー）/10分】  ⑤元のジグソー班に戻り、各資料から分かる・考えられる具体的な対策内容を、オクリンクプラスの「みんなのボード（〇班）」上で共有する。【ジグソー活動/20分】	①黒板に貼られたネームプレートで各資料の担当者を確認させ、タブレットを持ち歩いて自由に共有をさせる。  ⑤各自の「マイボード」のカードを「みんなのボード（〇班）」に送ってから、共有させる。 ★思考ツール「Yチャート」で3つの視点からカードを整理する。 ★新たな対策の提案にもチャレンジさせる。	
まとめ 2分	⑥次回の活動予定を確認する。 ⑦次回の活動で取り組む「追求シート（Google スプレッドシート）」について確認する。	⑥次回の活動予定を提示する。 ⑦次回の活動で取り組む「追求シート（Google スプレッドシート）」をクラスルーム上で確認させる。	

## ②本時

時間	学習活動・内容・予想される反応（S）	授業者の工夫・働きかけ（T）	留意点
導入 3分	①単元を貫く学習問題と、追求の中で生じた前時からの発展的な学習問題について確認する。  <b>単元を貫く学習問題：「どのようにして、近畿地方は観光がさかんな地域となってきたのか？なっていくべきか？」</b>  <b>前時～本時の学習問題 「どのようにして『観光公害（オーバーツーリズム）』という問題を解決し、『持続可能な観光』を目指していくべきか？」</b>	①スライドを提示し、問いかけて反応を確認しながら学習問題を再提示する。	①～② ・ICT活用
展開 42分	②今日の流れをスライドで確認する。  ③前時の「ジグソー活動」で検討した各班の「観光公害」への対策を「クロストーク」で共有する。 【発表2分×6グループ＋各質疑応答＝15分間】 <b>資料A：時間的・空間的分散←（問題：混雑）</b> ③集中する季節・休日・時間帯以外の来訪促進。 ④集中しやすいエリア以外の再発見&来訪促進。 ※新たなエリアへの来訪者には特典をつける。 ⑤「●●行き専用」「観光者専用」「住民専用」などの交通手段の充実。 ⑥「手ぶら観光」の推進。 ⑦入場者数の規制。 ⑧アプリで混雑度合いをリアルタイムチェック。 ⇒共通「旅行者」「住民」各自の「利便性」が高まる！ ⑨「企業（観光産業）」の利益・雇用が安定する！ <b>資料B：マナー・ルールの浸透・強化←（問題：違反）</b> ☆～という違反行為に対して…というマナー・ルールを設ける or 強化する。※「京都まちけっと」 ☆外国人旅行者に向けて多言語に周知する。 ☆違反に対する罰則・罰金の設定・強化。 ☆住民と旅行者が一体となって楽しめるイベントの開催。 ⇒「旅行者」「住民」「企業（観光産業）」「自治体」にとって安心した観光が保障される！ <b>資料C：観光に関する「●●税・●●料」の導入・強化←（問題：観光資源・観光体制の維持・発展）</b> ☆国内外の各都市…「宿泊税」の導入&増額（京都市） 「●●税」「●●料」の導入 ⇒「自治体」にとって資料A・Bの対策に充てる財源に活用できる！間接的に「入場者数の規制」につながり、「混雑」問題につながる。  ④「クロストーク」で共有した対策の中から、「持続可能な観光」に有効だと考える対策を個人で選択・判断し、Google スプレッドシート上に表現する。【12分間】	②今日の流れをスライドで提示する。  ③「クロストーク」を進行する。  ★ <u>どの資料から、どの問題・立場にとって有効であるかが明示</u> できるように、前時の活動からオクリンクプラスの「みんなのボード（〇班）」の形式を工夫しておく。 ※思考ツール「Yチャート」活用  ※発表者のタブレットを共有し、オクリンクプラス上の「みんなのボード（〇班）」を提示させる。  ※発表ごとに質問がないか全体に確認する。	④・机間支援

展開 42分	⑤班で各自の対策内容を共有する。 【7分間】	⑥各自のGoogle スプレッドシートを見せながら共有するように促す。 ⑦「個別の指導化」を図る。 ⑧内容に相違点がある数人を指名する。	⑤・ICT活用
	⑥「1人でor 班以外の誰かと or 授業者と」再検討する。 【5分間】 ⑦全体で数人が対策を発表する。 【3分間】		
まとめ 5分	⑧近畿地方全体や京都市を中心に単元を通して考えた「観光公害」「持続可能な観光」への考えをGoogle スプレッドシート上に表現する。	⑧近畿地方全体や京都市を中心に考えた「観光公害」「持続可能な観光」のあり方は、「観光立国」の日本各地においても共通するものであることを確認する。	

#### (4) 評価

評価方法：オクリンクプラスやGoogle スプレッドシート上の取組・表現、「知識構成型ジグソー法」での活動・話し合いの様子

観点	達成した子どもの姿 (B)	達成した子どもの姿 (A)
思考判断表現	「ジグソー法」を通して、「観光公害：オーバーツーリズム」の解決策を多面的・多角的に考察するとともに、「観光立国」日本全体につながる「持続可能な観光のあり方」に対する考えを、根拠をもって表現している。	「ジグソー法」を通して、「観光公害：オーバーツーリズム」の解決策を多面的・多角的に考察するとともに、「観光立国」日本全体につながる「持続可能な観光のあり方」に対する自分の考えをくり返し見直し、 <u>最終的な根拠をもってより具体的に表現している。</u>
主体的	「観光公害：オーバーツーリズム」の解決策の考察を通して、「持続可能な観光のあり方」について、主体的に追求している。	「観光公害：オーバーツーリズム」の解決策の考察を通して、「持続可能な観光のあり方」について、 <u>主体的に追求し、観光に対する自分の具体的な行動目標に言及している。</u>

### 6 実践を振り返って（成果と課題）

#### (1) 授業の実際【「2 (2) テーマに迫る手立て」との関連をふまえて】

##### ① レディネス調査と近畿地方の「観光」に関する資料分析から、単元を貫く学習問題を設定した。

※「3 (4) 単元の指導計画 第1次」

近畿地方に関するレディネス調査を受けて、一人一人のイメージを共有することから単元の学習を始めた。「旅行で訪れる場所が多い。」「歴史の授業で多く登場してきた場所が多い。」などの考えを共有した後、3つの資料から、「観光立国」日本において首都機能のある関東地方に次いで近畿地方が存在感を示している事実を読み取り、単元を貫く学習問題を設定した。「地理的な見方・考え方 (地域)」を働かせ、「観光」を中心に近畿地方の地方的特殊性を理解できるように学習問題を工夫した (手立て①)。

次に、学習問題への予想を立てた。具体的な観光資源として、「京都の街並み」「大阪の商業施設」「琵琶湖」などが挙がり、次時からの学習の見通しを確認した。

##### ② 「社会的な見方・考え方」を働かせる学習問題を設定し、琵琶湖の影響、京都市のまちづくりや大阪の産業の特色について追求した。

※「3 (4) 単元の指導計画 第2～4次」

3 (4) 単元の指導計画第2～4次に示したとおり、琵琶湖については「人間と自然の関わり」、京都市のまちづくりについては「他地域との結びつき」、大阪の産業については「場所」の「地理的な見方・考え方」を働かせる学習問題を設定し、追求活動を進めた (手立て①)。その際、視覚的資料を活用し、学園生の気付きや反応を受け止めながら設定することを心がけた。例えば、京都市のまちづくりの授業では、レディネス調査や単元の1時間目にふれた資料を活用して、「クラスの中では京都に行きたい人が多いね。」「この資料からは京都が訪問率ランキングの上位にいるね。」という気付き・反応を引き出してから、「なぜ、京都市には他地域から多くの人々が集まるのか?」という学習問題を設定した。

琵琶湖の影響と京都市のまちづくりに関する追求活動では、「知識構成型ジグソー法」を活用した (手立て③)。資料分析の場面では、様々なレベル・種類の資料の中から、学園生が自己選択・自己決定し、追求を進めた。「エキスパート活動」の資料分析や共有場面、「ジグソー活動」の共有場面ではICT機器 (クラスルーム・オクリンクプラス) を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的につながるように工夫した (手立て②)。



誰に・何に対するどのような効果(プラス面・メリット)?

- 日本人旅行者
  外国人旅行者
  観光関連企業・従事者
  地域住民
  自治体(例:京都市)
  その他

図6: 多角的に捉えるためのカードの工夫

<b>資料A</b> 資料から分かる・考えられる対策内容は? 夏と冬に普段は公開されていない文化財を特別に鑑賞できるキャンペーン。京都を代表する料亭やレストランのスペシャルメニューを特別価格で楽しめるキャンペーンを行っている	<b>資料B</b> 資料から分かる・考えられる対策内容は? ゴミの体積が5分の1になるスマートゴミ箱を設置している	<b>資料C</b> 資料から分かる・考えられる対策内容は? 国際観光旅客税や宿泊税などの税金の引き上げ
誰に・何に対するどのような効果(プラス面・メリット)? 日本人旅行者 <input type="checkbox"/> 外国人旅行者 <input checked="" type="checkbox"/> 観光関連企業・従事者 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 自治体(例:京都市) <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/>	誰に・何に対するどのような効果(プラス面・メリット)? 日本人旅行者 <input type="checkbox"/> 外国人旅行者 <input checked="" type="checkbox"/> 観光関連企業・従事者 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 自治体(例:京都市) <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/>	誰に・何に対するどのような効果(プラス面・メリット)? 日本人旅行者 <input type="checkbox"/> 外国人旅行者 <input checked="" type="checkbox"/> 観光関連企業・従事者 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民 <input type="checkbox"/> 自治体(例:京都市) <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/>
どのような効果(プラス面・メリット)? 夏と冬に積極的に誘客を行うことで、季節問わず観光客が訪れて観光関連産業の雇用の安定にもつながる	どのような効果(プラス面・メリット)? 街の外観がよくなる ゴミ箱を設置することやゴミ回収を多くしなくてもいい	どのような効果(プラス面・メリット)? 税金を使い、街をきれいにしたり、より良いサービスを提供する。

図7: 学園生の分析カード例

次に、「Yチャート」で共有した各グループの解決策をふまえて、「持続可能な観光」に有効だと考える解決策を個人で選択・判断し、Googleスプレッドシート(図8)上に表現した。ここでは、1学期の単元でも活用した「円グラフ」を取り入れることで、視覚的にも表現することができた学園生が多かった。また、解決策の優先度を考えさせることで、多面的・多角的に何度も考えを練り直して、最終的な考えを表現することができた学園生が多かった。本時では、各自がGoogleスプレッドシート上に考えをまとめる段階で授業が終わり、次の時間にグループでの共有と自身の考えの再考に取り組んだ。

近畿地方全体の: 「どのようにして、近畿地方は観光がさかんな地域となったのか? (これからなっていくべきか?)」 2組 2番

前期から本時の: 「どのようにして、「観光公害(オーバーツーリズム)」という問題を解決し、「持続可能な観光」を目指していくべきか?」 氏名

【「持続可能な観光」の実現に向けた私の「観光公害」対策はコレだ!】

① 対策の視点は「分散」「マナー・ルール」「課税・徴収」「その他」から選ぶ。(複数可)

② 優先順位を決めて、具体的な対策内容と優先割合を入力する。(合計100%)

③ 具体的な対策内容は2つ以上を提案する。

④ 下の①の欄に、その具体的な対策を選んだ理由を表現する。(〇〇をふまえて)

● マナー・ルールを多言語で示す!  
 ● マナー・ルール違反すると罰金!  
 ● 観光客の活動時間の分散化!

対策の視点	優先順位	具体的な対策内容	数値(手前)
選択	例	「～」というマナー違反には「◆料」を!	
マナー・...	1	マナー・ルールを多言語で示す!	55
マナー・...	2	マナー・ルール違反すると罰金!	30
分散	3	観光客の活動時間の分散化!	15
選択	4		
選択	5		
合計			100

☆ この具体的な対策内容にした理由 -- ①根拠とした資料を明らかに! ②誰に・何に対するどのような効果(プラス面・メリット)がある?

資料B①から外国人旅行者はどのようなことがマナー違反なのかあまり自覚していない事がわかるので、まずはマナー・ルールを多言語で示して、呼びかけをしたほうが良いと思いました(ポスターなど)。それでも違反をしてしまう旅行者(日本人旅行者も含める)がいれば罰金を課すことで違反を減らせたいと思います。また、朝と夜ならではの特別な体験の魅力発信に取り組むことで旅行者の活動時間を分散化することができ、限られた時間・場所に人が集まらなくなるため混雑が減って観光がしやすくなり、お店の方もスムーズに仕事ができると思いました。

図8: Googleスプレッドシートの例①

近畿地方全体の: 「どのようにして、近畿地方は観光がさかんな地域となったのか? (これからなっていくべきか?)」 組 番

前期から本時の: 「どのようにして、「観光公害(オーバーツーリズム)」という問題を解決し、「持続可能な観光」を目指していくべきか?」 氏名

【「持続可能な観光」の実現に向けた私の「観光公害」対策はコレだ!】

① 対策の視点は「分散」「マナー・ルール」「課税・徴収」「その他」から選ぶ。(複数可)

② 優先順位を決めて、具体的な対策内容と優先割合を入力する。(合計100%)

③ 具体的な対策内容は2つ以上を提案する。

④ 下の①の欄に、その具体的な対策を選んだ理由を表現する。(〇〇をふまえて)

● 取り立てた税によって京町家を修...  
 ● 混雑している時間・時期・場所を...  
 ● マナーに関するポスターなどの制...

対策の視点	優先順位	具体的な対策内容	数値(手前)
選択	例	「～」というマナー違反には「◆料」を!	
マナー・...	1	取り立てた税によって京町家を修復する	40
分散	2	混雑している時間・時期・場所をずらして観光する	35
課税・徴収	3	マナーに関するポスターなどの制作を市全体で行う	25
選択	4		
選択	5		
合計			100

☆ この具体的な対策内容にした理由 -- ①根拠とした資料を明らかに! ②誰に・何に対するどのような効果(プラス面・メリット)がある?

マナー違反に関する観光公害対策は、資料B④を使って考えました。今でもマナーに関するポスターの制作を行っています。より市全体で活性化させるべきだと考えました。これにより、マナー違反をする観光客が減り、観光がより楽に心地よく行えると思います。

分散に関する観光公害対策は、一つは資料A①②を、もう一つは資料A④を使って考えました。時期や時間帯、場所をずらすことで、旅行者が観光をよりスムーズに行え、旅行が楽しく感じられると思います。

課税・徴収に関する観光公害対策は、資料C③と過去の授業を使って考えました。より良い観光地にするために取り立てた税を古い建物の修復などに使うことで、観光客にうけやすくなると思います。

図8: Googleスプレッドシートの例②

④ 単元を貫く学習問題と「持続可能な観光」に対する自身の考えをまとめた。

Googleスプレッドシートを活用し、単元を貫く学習問題の「どのようにして、近畿地方は観光がさかんな地域となってきたのか？なっていくべきか？」に対する自身の考えをまとめた（図9）。

近畿地方全体の◎：「どのようにして、近畿地方は観光が	2	組	5	番
①さかんな地域となってきたのか？②（これから）なっていくべきか？」	氏名			
① 「琵琶湖」「京都のまちづくり」「大阪の産業」の授業を振り返り、赤字に対する自分の考えをまとめよう！ ※記入例「～という理由・条件・行動などによって（この部分が大切！）、近畿地方は観光がさかんな地域となっている！」				
琵琶湖では粉石鱒を進める市民運動、条例など、地域住民も一丸となって汚染を止めて美しい景観になるように取り組んでいる。京都ではもともとの多くの世界遺産と、コミュニティバスや鉄道などが観光地付近に多く通っていて移動しやすく、また条例で昔ながらの景観を守るために建築物広告などのデザインを決めていたり、全体が観光に力を入れている。大阪では空港、工場、観光施設の整備や拡大をし、歴史ある商人文化、卸売業、たこ焼き、グリコなどの食文化、お笑いや面白いものなどのたくさんの魅力が集まっている。3つとも歴史的な文化や景観を大切に考え、一つの機関だけじゃなく全体で行動していることによって、近畿地方は観光がさかんな地域となっている。				

図9①：「どのようにして観光がさかんな地域となってきたのか？」に対する振り返り例

② 「観光公害（オーバーツーリズム）」の授業を振り返り、青字に対する自分の考えをまとめよう！ ※記入例「近畿地方を含む日本の観光が『持続可能』になるためには、～～という問題に対して、……ということが重要であり、修学旅行を含むこれからの観光に対して、私自身は-----ということ大切にしていきたい。」
近畿地方を含む日本の観光は、観光客が増え、経済的な効果が発生しやすいというメリットもあれば、その一部の観光客によって、日本の大切な観光資源が傷つけられたり、その地域に住んでいる住民の人々に交通や騒音などの面で迷惑がかかってしまうというデメリットがあります。そのような問題を解決するために観光者に向けてのルールやマナーを明確にし、その決まりを観光者がしっかり守ること、そして自治体や観光客からの地域住民への配慮が大切だと思います。例えば、騒音対策のため、観光者はある決まった場所では大声などを出さないようにしたり、交通の面では、地域住民専用のバスや、電車などを多く設置するのがいいと思いました。私も修学旅行に行くときは、マナー、ルールを守るという自分たちができることを徹底し、観光客も地域住民もみんなにとってメリットがあるような観光にしたいです。

図9②：「どのようにして観光がさかんな地域となっていくべきか？（『観光公害』の解決策）」に対する振り返り例

近畿地方が観光のさかんな地域となってきた理由については、図9①のように、3(4)の「単元で目指す深い学びの姿」で示した「歴史的背景をもつ観光資源が多いこと」「交通網の整備が進んだこと」「観光資源に対する全体的な取組があること」といった3つの視点から考えを表現することができた学園生は3分の1程度であった。しかし、既有知識の再確認の意味合いもある「歴史的背景をもつ観光資源が多いこと」のみではなく、「交通網の整備が進んだこと」「観光資源に対する全体的な取組があること」を新たな学びとして表現することができた学園生は多かった。

近畿地方のこれからの「持続可能な観光」に対する考えについては、図9②のように、「観光公害」の具体例にふれつつ、どのような解決策があるかを示し、自分自身が「持続可能な観光」に対してどのように意識し、取り組んでいくかを表現することができた学園生が3分の2程度であった。

どちらの振り返りについても、記入例（話型）を示すこととICT機器を活用することで、普段は文章記述が苦手な学園生も考えを表現することに取り組むことができた。

## (2) 研究テーマに関わる評価

- ① 本時の学習問題(◎)に対する考えや単元のまとめの記述に、各分野の「社会的な見方・考え方」を働かせた記述が表現されている。

	C評価	B評価	A評価
知識・技能	2人(7.6%)	14人(54.0%)	10人(38.4%)
思考・判断・表現	5人(19.2%)	11人(42.3%)	10人(38.4%)
主体的に学習に取り組む態度	2人(8%)	10人(40%)	13人(52%)

- ② 事後アンケート項目「ICT機器の活用」「個別最適な学び」「知識構成型ジグソー法による協働的な学び」「単元の振り返りシート」に対する肯定的評価が80%以上ある。

	肯定的	やや肯定的
①自分は近畿地方の学習において「資料から適切に情報を読み取ることができた」	8人 (34.8%)	13人 (56.5%)
②自分は近畿地方の学習において「考察した内容をもとに学習問題に対する考えを表現することができた」 ※オクリンクプラスやGoogleスプレッドシート上で	8人 (34.8%)	13人 (56.5%)
③自分は近畿地方の学習において「学習問題の解決や学習の理解に向けて、真剣に粘り強く取り組んだ」	11人 (47.8%)	12人 (52.2%)
④「ジグソー法(京都のまちづくり・「観光公害」対策で実施)」は自分の学習活動に効果的だった	12人 (52.2%)	11人 (47.8%)
⑤「ICT(タブレット)」を活用した活動(資料分析・オクリンクプラスでの話し合い活動・Googleスプレッドシートでの振り返り)は自分の学習に効果的だった	14人 (60.9%)	9人 (39.1%)
⑥「振り返り(オクリンクプラスのカード・Googleスプレッドシート)」は自分の学習を確認するために効果的だった	8人 (34.8%)	14人 (60.9%)
⑦修学旅行で訪問する近畿地方に関する知識が以前よりも増えた	21人 (91.3%)	2人 (8.7%)
⑧近畿地方への修学旅行に対する意欲が以前よりも高まった	18人 (78.3%)	4人 (17.4%)
⑨「観光公害(オーバーツーリズム)」の対策や「持続可能な観光」のあり方について自分なりに考えることができた	12人 (52.2%)	11人 (47.8%)

6(1)の授業の実際および表2より、「社会的な見方・考え方」を働かせる問いを単元の中で関連させて設定し、「知識構成型ジグソー法」とICT機器の活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を図ったことで、学園生は修学旅行で実際に訪れる近畿地方を学習する追求意欲を持ち続け、「観光」を中心とした近畿地方の地方的特殊性に対する理解が進んだり、考えを深めたりすることがおおむねできたと判断できる。

一方で、表1で示した単元の評価基準に基づく授業者の評価から捉えると、思考・判断・表現で求めた「社会的な見方・考え方」を働かせたA評価の記述が約40%に留まった。図4や図8、図9の学園生などは、諸資料の分析から多面的・多角的に学習問題に対する考えを表現することができた。その他のB・C評価の学園生は、豊富な情報量の中から適切な情報を読み取る部分に時間がかかったり、考えの具体性が不十分であったり、まとめが面的または一つの立場にのみ言及していたりした。手立て④の「ICT機器を活用した振り返りの工夫」が、毎時間は実施できず、ワークシート以外の学びの蓄積が不十分になったり、「知識構成型ジグソー法」の「エキスパート活動」や「ジグソー活動」に充てる活動時間が不十分だったりしたことなどが要因として考えられる。

### (3) 今後の課題

#### ① 「社会的な見方・考え方」を働かせる問いの工夫

本実践では、単元導入時に客観的な資料提示から学園生の認識を揺さぶり、問いや願いを共有した上で、「社会的（地理的）な見方・考え方」を働かせるための「単元を貫く学習問題」を設定し、毎授業の学習問題も学習内容を身に付ける上で適切な問いとなるように工夫した。教科書内容をふまえた上で、そのような単元構成を工夫することは、時数等の調整が不可避だが、今回のように、「ICT機器」を活用し、「知識構成型ジグソー法」を採用することで、そのハードルが下がるといえる。今後も、中核となる社会的事象に関するレディネス調査から学園生の実態を把握し、精選した資料をもとに学園生が「社会的な見方・考え方」を働かせて追求を進めることができるように、問いと単元構成を工夫していきたい。そうすることで、学園生がより主体的・対話的に問題解決に向き合うことができるようにしていきたい。

#### ② 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の再考

本実践では、「知識構成型ジグソー法」を手立ての中心として、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図った。個々の追求過程やグループ活動の様子を見とると、1学期の授業実践よりも個々の学びが成立し、他者との「協働的な学び」を経て、各自の納得解に至る姿があった。しかし、「個別最適な学び」については、「指導の個別化」よりも「学習の個性化」の部分が弱かったため、個別化・個性化の具体的内容を再確認し、「知識構成型ジグソー法」以外でも「個別最適な学び」を保障する手立てを見出していきたい。「協働的な学び」についても、「クロストーク」で全体共有した考えの共通点や相違点をもとに、再度グループで考えを再検討する時間を確保することで、考えの強化や深化を図ることができるといえる。

今後も、一体化に欠かせない「ICTの活用」や「振り返り」の方法なども先行事例をもとに研究しながら、子どもの資質・能力を高める授業実践を積み重ねていきたい。

#### <参考・引用文献・URL>

- ・文部科学省.『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』.東洋館出版社.2018.
- ・国立教育政策研究所.『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 社会】』.東洋館出版社.2020.
- ・文部科学省.『育成を目指す資質・能力と個別最適な学び・協働的な学び』.2021.  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/senseiyouen/mext\\_01317.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiyouen/mext_01317.html) (参照2025-05-15)
- ・積山美紀子.『社会的な見方・考え方を働かせた「問い」を生み出し続ける児童学園生の育成』.2018.第1062号
- ・柳澤彰紀.『4つの空間概念を組み込んだ中学校社会科観光学習の授業開発』.社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』.2020.第32号
- ・図1引用元:『ICTを活用した学習活動をサポート』<https://www.sky-school-ict.net/class/front/front52.html>(参照2025-07-24)
- ・国土交通省観光庁.『観光統計・白書』.2024.[https://www.mlit.go.jp/kankocho/tokei\\_hakusyo.html](https://www.mlit.go.jp/kankocho/tokei_hakusyo.html)(参照2025-07-15)
- ・京都市.『京都観光振興計画2025』.2025.<https://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/page/0000283682.html>(参照2025-07-20)
- ・京都市観光協会.『持続可能な観光地づくり』2025.<https://www.kyokanko.or.jp/project/sustainable/>(参照2025-07-24)